

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年1月20日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873300529		
法人名	社会福祉法人 清河会		
事業所名	グループホーム サングリーンピア山方	ユニット名	
所在地	〒319-3106 茨城県常陸大宮市西野内1537-1		
自己評価作成日	平成27年6月4日	評価結果 市町村受理日	平成28年2月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873300529-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年7月27日	評価機関 決 済 日	平成28年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・三人行事として、新春祝賀会・納涼祭・敬老会を開催して、多くの家族へ参加して頂き、利用者と家族が共に楽しく過ごせるように毎年盛大に行っている。
・季節に合った外出支援を計画したり、天気の良い日は、外に出て日光浴をしたり、利用者が定期的に気分転換を図ることができるよう支援しております。
・地域との関わりを大切にして、小学校運動会やゆかいな仲間の会からのご招待があるので、毎年参加させて頂くようにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は近くに清流の久慈川が流れるなど、自然豊かで季節が身近に感じられる場所に立地している。
入居時に食物アレルギーや嫌いなものを確認し、特別食や別献立で対応したり、状況に合わせて刻みやペースト状にして、食事を楽しめるよう支援している。
利用者一人ひとりに担当職員が決められており、3ヶ月毎に職員から家族等に事業所での日々の生活の様子を手紙にて報告している。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関や事務所や食堂に掲示し、月1回の職員会議で確認し合い、実践につなげている。	開設時に全職員で話し合い「利用者と地域の関わりを大切にし…」など地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成して玄関や事務室、居間兼食堂に掲示している。 職員は月1回の職員会議で理念を確認し、共有して実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	小学校からの招待により、「玉手箱」に参加させて頂いたり、「ゆかいな仲間会」からの招待により、季節に合った行事に参加させて頂き、地域との交流に努めております。	利用者と職員は、小学校の運動会に招待されて競技に参加したり、ハロウィンでは近隣の保育園児が来訪して交流している。 月1回ミュージックケアのボランティアを受け入れたり、地元ボランティア団体「ゆかいな仲間会」と一緒に鳥追祭りなどの季節の行事に参加している。 事業所は中学生の職場体験を受け入れたり、同一法人の特別養護老人ホームとの合同納涼祭に地域住民を招待し、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特になし。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、輪投げ大会・避難訓練を見学して頂いたり、ヒヤリハットの事例を数例提示して、委員の方達と活発な意見交換をしたりしている。	運営推進会議は市職員や地域包括支援センター職員、民生委員、地域住民の参加を得て2ヶ月に1回開催し、議事録を作成している。 会議では、出席者全員で避難訓練や利用者のレクリエーションを見学するほか、事業所からは利用者の様子や運営状況、ヒヤリハット事例等を報告している。 地域包括センター職員から、ミュージックケアについての質問を受けたり、出た意見等を職員で検討し記録に残すとともにサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員が運営推進会議に毎回出席している。 常陸大宮市グループホーム連絡協議会へ参加し、情報交換を行い、協力関係構築に取り組んでいる。	市の担当者と地域包括支援センターの職員が運営推進会議に出席している。 管理者は市の介護福祉課を随時訪問し、要介護更新申請の情報を得たり、市のグループホーム連絡協議会に参加して情報交換を行うなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束のない介護のための指針」を事業所内に掲示するとともに、同一法人で高齢者虐待・身体拘束についての研修報告会に参加して正しく理解を深めている。今現在、身体拘束は、行っていない状況である。	同一法人の合同研修会で、身体拘束排除に関する内部研修に参加しているほか、「身体拘束のない介護のための指針」を事業所内に掲示している。 職員は玄関等の施錠解除に向けた話し合いを行い、散歩など外出の要望がある場合は、職員が付き添って外出できるように対応している。 やむを得ず身体拘束を行う場合に必要な、同意書や経過観察記録等の書類を整備するまでには至っていない。	やむを得ず身体拘束を行う場合に必要な、「同意書」や「経過観察記録」、「再検討記録」を整備することを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同一法人の研修報告会で地域包括職員による高齢者虐待防止について勉強する機会を持ち、職員間で共通の認識と理解を図るようにしている。職員会議でも、言葉遣いに常に注意するように職員間で徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	同一法人の研修報告会で地域包括職員による権利擁護について、学ぶ機会を設け職員間で制度の理解に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に、契約の締結・解約についてと利用料金について、利用者本人とその家族に対し十分な説明を行い、理解と納得を図っている。 また、改定等が生じた際、その都度文章にて知らせるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	前回の外部評価で「期待したい内容」に取り上げられた無記名アンケートを実施するまでには至っていない。	利用者からは日々のふれ合いを通じて、家族等からは面会時に意見や要望聴いている。 無記名のアンケートを実施して家族等の思いを汲みあげ、アンケート結果を職員で話し合っ、得た課題を共有している。 家族等の要望で3ヶ月毎に利用者の生活状況等を事業所便りとして報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、月1回の職員会議で職員から出た意見や提案を、主任会議に提議し、意見や要望が反映できるように努めている。	管理者は職員が意見や要望を気軽に出せるような関係作りに努め、月1回の職員会議で出た意見や提案は同一法人の主任会議に提議している。 利用者間のトラブルの発生を防ぐために、食堂の席順を替えたり、利用者の安全確保のために家具の配置を変えるなど、職員から出た意見や提案を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新たな資格習得を気に柔軟な部署異動や労働時間、給与水準の変更等各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、一人でも多くの職員が法人内外研修に参加できるよう配慮している。また、月に一度研修報告会を法人内で開催し、外部研修で得た知識を報告し、職員間で共有できるよう図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	常陸大宮市グループホーム連絡協議会及び常陸大宮市介護支援専門員連絡協議会に参加し、定例会で情報交換などに努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安なこと、要望等へ耳を傾け、場合によっては、家族からの協力を得ながら初期の信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談を通して、家族が望む本人の暮らしや抱える不安を把握できるよう耳を傾け、見学の機会を設けて利用開始がスムーズに安心して開始できるように、入所の支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要介護度・年齢・ADLの状況を把握して、本人の生活場所がグループホーム対象かどうか判断し、他のサービス利用が必要かどうかも見極め対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、グループホームでの生活を共により良いものとするため、食器の後片付け・洗濯畳み・居室清掃等できることを共に行うようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外泊の協力の依頼を手紙を通して伝え、新春祝賀会・納涼祭・敬老会等家族の参加をお願いして、共に楽しい時間を共有できるよう支援しております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの床屋の方が定期的にホームに来所して頂き、散髪を行って頂ける方がおり関係継続に努めている。 姉妹の関係や親子の関係で、外泊に協力して頂いている方がおり、手紙を通して外泊の継続をお願いしている。	利用者の家族等や友人が来訪した時には、ゆっくり話ができるよう配慮するとともに、家族等の協力で入居以前から利用していた馴染みの理容師を訪問理容で継続利用ができるよう支援している。 親戚や家族等に手紙で外出や外泊を働きかけ、親戚の家に出かけたり、家族等の家に外泊するなど、馴染みの人や場所との関係が継続出来るように取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同志の関係を把握して、午前中テーブルを囲んで笑顔で過ごせるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族からの相談があれば随時受付を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は利用者と日々の関わりの中で、情報を収集して希望や要望を記録し、全職員で共有している。また、アセスメント用紙を利用して利用者の希望や要望を把握している。	職員はアセスメント表や利用者との日々の関わりの中から、希望や思いを把握するとともに、「申し送りノート」に記載して共有している。 意志疎通の困難な利用者に対しては、表情や仕草から思いの把握に努めたり、家族等と相談して職員で話し合い、利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用初期段階でのアセスメントで把握し、日常生活のコミュニケーションの中から以前の暮らし方や家族から生活歴を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居して1ヶ月程、本人の生活の様子を記録するようにして、午前・午後に、血圧と体温測定を行い、心身状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族から希望を聞いたりと、日々の生活を通して本人の希望を日誌へ記録して、医療面は、訪問看護師からの意見を聞き作成している。	介護計画は利用者や家族等の意向を取り入れるとともに、支援経過を基に課題を把握し、医師や訪問看護師の意見を聴いて職員で話し合い、作成している。 3ヶ月毎にモニタリングを実施し、短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月に設定し、6ヶ月毎に見直すとともに、利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、個別記録に記入し、ケアの実践は、ケアチェック表に記入している。その各記録を介護計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、ニーズに対応できるよう職員会議で話し合い、対応するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事のお誘いを通して、本人の持つ心身の力が発揮できるように、職員付き添いにて、安全に過ごせるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に家族等から希望するかかりつけ医を確認し、家族の受診付き添いが困難な時は、職員が通院を支援している。訪問看護師の健康チェックにより、利用者の適切な医療へ繋げることができるよう支援している。	かかりつけ医への受診は、家族等の付き添いが基本となっているが、家族等が付き添えない場合には職員が付き添っているほか、協力医療機関への定期的な受診を支援している。 家族等からの受診結果は、「申し送りノート」に記載して職員で共有しているほか、職員が付き添った場合には、家族等に受診結果を報告している。 週1回訪問看護事業所の看護師による健康管理を支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の気になる情報や気づきを、業務日誌へ記録しておいて、週1回の訪問看護師へ伝え相談するようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時病院からサマリーの提供依頼がある時は、提供するようにしている。また、退院時、サービス担当者会議の開催や看護サマリーにより情報を頂き、医療機関との協働に努めている。それでも疑問に思うことは、直接病院へ電話して情報を得るようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期は、出来るだけ特養へ移動して頂いているが、特養が満所でグループホームでの看取りを家族が希望する場合は、業務委託の訪問看護師と連携して、看取りを行う支援に取り組んでいる。	事業所は「重度化した場合の対応に係る指針」を用いて利用者や家族等に説明しているが、同意書等の書面で同意を得るまでには至っていない。 事業所での看取り介護は、現時点では行われていない。	重度化や終末期に向けた事業所の対応方針を代表者や職員で話し合い、事業所としてできる出来ないことを明文化して利用者や家族等に説明し、書類で同意を得ることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが、AEDの使用方法や法人の勉強会にて事故発生時の対応方法等を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の議題で、近隣住民に避難訓練を見学して頂き、その時に災害時の協力を呼びかけている。	夜間想定を含めた避難訓練を毎月実施しているが、避難訓練の実施報告書を作成し、問題点を職員間で共有するまでには至っていない。 災害に備えて飲料水や缶詰等の食品を備蓄しているが、品名や数、賞味期限等を記載して管理するまでには至っていない。	避難訓練報告書を作成し、訓練で明らかになった問題点を職員間で共有するほか、備蓄品の品名や数、賞味期限等が記入できる備蓄品リストを作成し、管理することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴介助は基本一人ずつ対応し、同性介助が必要な利用者には、その都度検討し対応している。トイレ介助の際には、職員会議にてトイレ誘導時必ずドアを閉めるように、プライバシーを損ねないように対応している。	職員は利用者「個人」を尊重し、人生の先輩として敬うとともに、敬意ある言葉遣いに努めている。 利用者の羞恥心や自尊心に配慮し、入浴や排泄の時は耳元で声かけをしたり、トイレの外で待つなどしてプライバシーに配慮した支援をしている。 個人情報に関する書類は事務室の施錠できる書棚に保管し、情報漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	随時職員等が利用者の希望を聞いて、できるだけ希望に添えるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己決定できる利用者に対しては、居室で過ごしたい時は無理に食堂へ誘導せず対応したり、自由に毎日過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時、着替える衣類を選択できる利用者には、入浴前本人に選んで頂くようにしている。整容できる利用者には、声掛けにて行って頂けるように対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日利用者と職員は、一緒に食事したり食事の片付けを行っている。5月には、園庭にテーブルを出してお花見しながら食事している。時々、外食ドライブを計画して外へ食べに行っている。	職員は利用者と同じテーブルに着き、食事介助や見守りをしながら一緒に食事をしている。利用者は出来る範囲で、下膳やテーブル拭きなどを手伝っている。 天気の良い日には、園庭にテーブルを出して花見をしながらや、外出時に好きなおやつを購入するなど、食事が楽しめるように支援している	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は、毎回チェック表へ記録している。食べる量について、摂取量が少なくなってきた利用者については、1週間分の記録表を使用して摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがい水を飲んでむせてしまう利用者へは、ガーゼを使用して口腔内を清潔にしたり、自分の歯がある利用者へは、歯ブラシを使用して歯磨きを行ってもらうようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して利用者排泄パターンを把握している。常に職員間で、利用者のトイレ誘導時間を検討し、おむつの使用を減らせるように対応している。	職員は利用者毎に排泄記録表を作成し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、適切にトイレ誘導をすることで、オムツの量を減らし、排泄の自立が継続できるよう支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の体操や散歩など適度な運動の実施や水分の摂取支援を行い、根菜料理を取り入れる等便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯は決まっているものの、自己決定できる利用者には、長湯されたり、「今日入浴したい」との希望があったら、入浴して頂けるよう支援している。	週2回から3回午後の入浴を基本とするとともに、利用者の希望する日や時間帯にも入浴ができるよう支援している。 大型の浴槽に入浴する場合には、利用者の体力に合わせて補助階段を準備したり、滑り止めのマットを使用し入浴を安心して楽しめるよう支援している。 入浴を拒む利用者には、時間帯を変えたり、声かけの仕方を変えるなど、無理のないように促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、個々に応じて足の浮腫等がある利用者には、1時間程度休んで頂いたり、自立度が高い利用者には自由に休んで頂けるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、薬を変更した場合は、業務日誌へ記入している。血圧の変動等も、午前と午後血圧測定して、変動を確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で居室の清掃や、外へ出たい利用者には、食材取りを兼ねて散歩したり、一人ひとりの嗜好品を入居前のアセスメントやその都度確認して楽しく生活して頂けるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者は天気の良い日には散歩に出かけたりしているほか、玄関先の中庭のベンチで日光浴を楽しみ、気分転換が図れるよう支援をしている。 2ヶ月に1回程度の外出支援をレクリエーション担当職員が計画し、季節の花見や外食ドライブ等を支援している。	天気の良い日には、事業所周辺を散歩したり、中庭での日光浴や室外でのお茶を楽しんでいる。 外出計画を立てて、2ヶ月毎に近隣の「辰ノ口親水公園」や道の駅「北斗星」、「大子」に出かけるほか、季節毎の花見やドライブ外食などを支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理能力が低下している利用者に対しては、家族と相談して事業所において管理をして、収支報告を行っている。金銭所持の希望がある場合は、家族と話し合い理解を得た上で、買い物などお金を使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があれば、家族からの差し支えない範囲を確認しておき、電話の対応を支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングダイニングの共有空間からは、梅や桜など季節を感じられる庭を見渡せるようになっている。四方がガラス張りとなっている中庭があり、緑が青々と生い茂っている。	居間兼食堂は天井が高く、エアコン等で温度調整がされているほか、窓からは季節の花を見ることができるなど、快適な空間となっている。 玄関や廊下などには、利用者の習字作品や中学生の職場体験時の写真、運営推進会議録を掲示している。 居間兼食道の一角にある畳スペースやフローリングスペースには、ソファや椅子を配置し、利用者が寛げる場所になっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の畳スペースには、座卓とソファを配置、フローリングスペースにもソファや椅子、廊下へも椅子を配置して、利用者個々が思い思いの場所で過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に馴染みの物品を持参してもらえるよう説明している。家族の写真、椅子などを持ち込み、居心地の良い居室作りを行っている。	居室は洋室と和室があり、空いていれば利用者は自由に選択することができる。 居室には洗面台やエアコン、ベッド、整理ダンス、クローゼット等が備えられ、利用者は布団や筆筒やイス、家族等の写真等を自由に持ち込んでいる。 利用者はそれぞれ使い慣れた物品や思い出の品を自由に持ち込み、居心地よく暮らせる環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室へ滑り止め、階段を設置し、安全な環境を提供している。トイレには、遠くから把握できるように「便所」の看板を立てている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームサングリーンピア山方

作成日 平成28年2月12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		理念について時々職員会議で話し合っているが、毎月の会議では一つ一つの理念について具体的な議論がされておらず、サービスの向上に繋がっているか課題が残る。	毎月の職員会議で、一つ一つの理念について話し合い、サービスの向上に繋がるよう随時検討していく。	毎月の職員会議で、一つ一つの理念について話し合い、サービスの向上に繋がるよう随時検討していく。	6ヵ月
2		法人共通の無記名アンケートは実施しましたが、事業所独自の無記名アンケートを実施するまでには至っていない。	事業所独自の無記名アンケートを1年に1回実施できるようにする。	事業所独自の無記名アンケートを作成し、家族の意見や要望を汲み上げ、職員が共有し事業所の運営に反映させていく。	6ヵ月
3		現時点では看取りの介護が行われておらず、事業所として出来る出来ないことを明文化されておらず、書類で同意を得るまでには至っていない。	重度化や終末期の場合、事業所での対応は困難である説明を書面による同意をもらえるようにする。	事業所としてできることとできないことを書面で明文化し、利用者や家族等へ説明して同意を得る。	6ヵ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。